

平成25年9月30日

習志野市教育委員会
教育長 植松 榮人 様

習志野市学校施設再生計画検討専門委員会
委員長 根本 祐二

わが国では、1960年代から80年代の高度経済成長期に、急速な経済発展を遂げる中、国民の福祉の増進を目的として、多くの公共施設が短期間に集中的に整備をされてきました。

また、第2次ベビーブーム世代の増加に併せ、1970年代を中心に日本全国で多くの小・中学校を中心とした学校施設が建設され、今まさに、これらの学校施設が他の公共施設と歩調を合わせて老朽化し、更新時期を迎えつつあります。

習志野市においても、公共施設の老朽化対策、更新問題が、将来のまちづくりにとって、財政的にも、政策的にも、大きな影響を及ぼすことが想定されており、その対策として公共施設再生計画の策定作業が進行しているところです。その中でも、全体の約半数を占める学校施設を、児童・生徒の安全確保、教育環境の充実といった観点を含め、時代の要請に応じ、どのように改修、建替え、長寿命化などの対策を行うかが、これからの習志野市のまちづくりにとって大きな課題であると考えます。

学校施設再生計画検討専門委員会では、全国に先駆けた実効性のある対策を打ち出すことができるように、学校施設再生の取り組みに対する考え方や方策について、平成24年11月から3月まで、下記の委員により精力的に4回の議論を重ね、更に、その後も、事務局との協議を重ね、別添のとおり提言書を取りまとめました。

この提言書は、短い期間の中で各委員が、習志野市の現状と課題を真剣に受け止め、一つの対策として取りまとめたものであります。

未来を担う子どもたちが、習志野に生まれ、習志野で育ったことを誇りに思えるように、また、教育環境がより良いものとなるように、教育環境の再生、整備に向けて真摯に取り組むことをここに求め、提言書を提出いたします。

記

1. 提出資料 習志野市学校施設再生に関する提言書
～ 未来を担う子どもたちの教育環境の整備に向けて ～

2. 習志野市学校施設再生計画検討専門委員会委員

委員長	根本 祐二
副委員長	長 沢 悟
委員	大 塚 類
委員	倉 斗 綾子
委員	小 池 脩一
委員	柳 沢 要